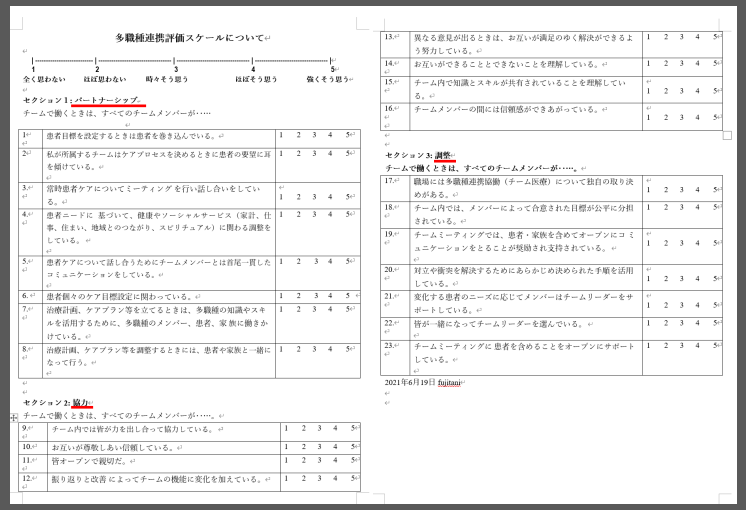
チーム医療の成熟度 → 医療の効率性との関係 分析結果報告

- 対象：2020年富士宮病院でのインターネット調査に回答した病棟看護師　N＝121
- 解析に用いた変数

  チーム医療の成熟度：Assessment of Inter-professional Team Collaboration Scale（AITCS-Ⅱ-J）

  医療の効率性：DiNQL事業で作成された①月間平均在院日数，②月間平均病床稼働率

  基本的属性：職種、病棟、雇用形態、性別、年齢層、経験年数



多職種連携評価スケールについて

1 全く思わない　2 ほぼ思わない　3 時々そう思う　4 ほぼそう思う　5 強くそう思う

セクション 1：パートナーシップ

チームで働くときは、すべてのチームメンバーが……

1	患者目標を設定するときは患者を巻き込んでいる。	1	2	3	4	5
2	私が所属するチームはケアプロセスを決めるときに患者の要望に耳を傾けている。	1	2	3	4	5
3	常時患者ケアについてミーティングを行い話し合いをしている。	1	2	3	4	5
4	患者ニードに 基づいて、健康やソーシャルサービス（家計、仕事、住まい、地域とのつながり、スピリチュアル）に関わる調整をしている。	1	2	3	4	5
5	患者ケアについて話し合うためにチームメンバーとは首尾一貫したコミュニケーションをしている。	1	2	3	4	5
6	患者個々のケア目標設定に関わっている。	1	2	3	4	5
7	治療計画、ケアプラン等を立てるときは、多職種の知識やスキルを活用するために、多職種のメンバー、患者、家族に働きかけている。	1	2	3	4	5
8	治療計画、ケアプラン等を調整するときには、患者や家族と一緒になって行う。	1	2	3	4	5

セクション 2：協力

チームで働くときは、すべてのチームメンバーが……。

9	チーム内では皆が力を出し合って協力している。	1	2	3	4	5
10	お互いが尊敬しあい信頼している。	1	2	3	4	5
11	皆オープンで親切だ。	1	2	3	4	5
12	振り返りと改善によってチームの機能に変化を加えている。	1	2	3	4	5
13	異なる意見が出るときは、お互いが満足のゆく解決ができるよう努力している。	1	2	3	4	5
14	お互いができることとできないことを理解している。	1	2	3	4	5
15	チーム内で知識とスキルが共有されていることを理解している。	1	2	3	4	5
16	チームメンバーの間には信頼感ができあがっている。	1	2	3	4	5

セクション 3：調整

チームで働くときは、すべてのチームメンバーが……。

17	職場には多職種連携協働（チーム医療）について独自の取り決めがある。	1	2	3	4	5
18	チーム内では、メンバーによって合意された目標が公平に分担されている。	1	2	3	4	5
19	チームミーティングでは、患者・家族を含めてオープンにコミュニケーションをとることが奨励され支持されている。	1	2	3	4	5
20	対立や衝突を解決するためにあらかじめ決められた手順を活用している。	1	2	3	4	5
21	変化する患者のニーズに応じてメンバーはチームリーダーをサポートしている。	1	2	3	4	5
22	皆が一緒になってチームリーダーを選んでいる。	1	2	3	4	5
23	チームミーティングに患者を含めることをオープンにサポートしている。	1	2	3	4	5

2021年6月19日 fujitani

月間平均在院日数＝

在院患者延数 / 1 / 2 ×（新入院患者数＋退院患者数）

月間平均病床稼働率＝

在院患者延数×100/病床数×365/12）

多職種連携評価スケールについて

|----------|----------|----------|----------|

1	2	3	4	5
全く思わない	ほぼ思わない	時々そう思う	ほぼそう思う	強くそう思う

セクション 1 : パートナーシップ

チームで働くときは、すべてのチームメンバーが････

1	患者目標を設定するときは患者を巻き込んでいる。	1	2	3	4	5
2	私が所属するチームはケアプロセスを決めるときに患者の要望に耳を傾けている。	1	2	3	4	5
3.	常時患者ケアについてミーティング を行い話し合いをしている。	1	2	3	4	5
4.	患者ニードに 基づいて、健康やソーシャルサービス（家計、仕事、住まい、地域とのつながり、スピリチュアル）に関わる調整をしている。	1	2	3	4	5
5.	患者ケアについて話し合うためにチームメンバーとは首尾一貫したコミュニケーションをしている。	1	2	3	4	5
6.	患者個々のケア目標設定に関わっている。	1	2	3	4	5
7.	治療計画、ケアプラン等を立てるときは、多職種の知識やスキルを活用するために、多職種のメンバー、患者、家 族に働きかけている。	1	2	3	4	5
8.	治療計画、ケアプラン等を調整するときには、患者や家族と一緒になって行う。	1	2	3	4	5

セクション 2: 協力

チームで働くときは、すべてのチームメンバーが････。

9.	チーム内では皆が力を出し合って協力している。	1	2	3	4	5
10.	お互いが尊敬しあい信頼している。	1	2	3	4	5
11.	皆オープンで親切だ。	1	2	3	4	5
12.	振り返りと改善 によってチームの機能に変化を加えている。	1	2	3	4	5
13.	異なる意見が出るときは、お互いが満足のゆく解決ができるよう努力している。	1	2	3	4	5
14.	お互いができることとできないことを理解している。	1	2	3	4	5
15.	チーム内で知識とスキルが共有されていることを理解している。	1	2	3	4	5
16.	チームメンバーの間には信頼感ができあがっている。	1	2	3	4	5

セクション 3: 調整

チームで働くときは、すべてのチームメンバーが････。

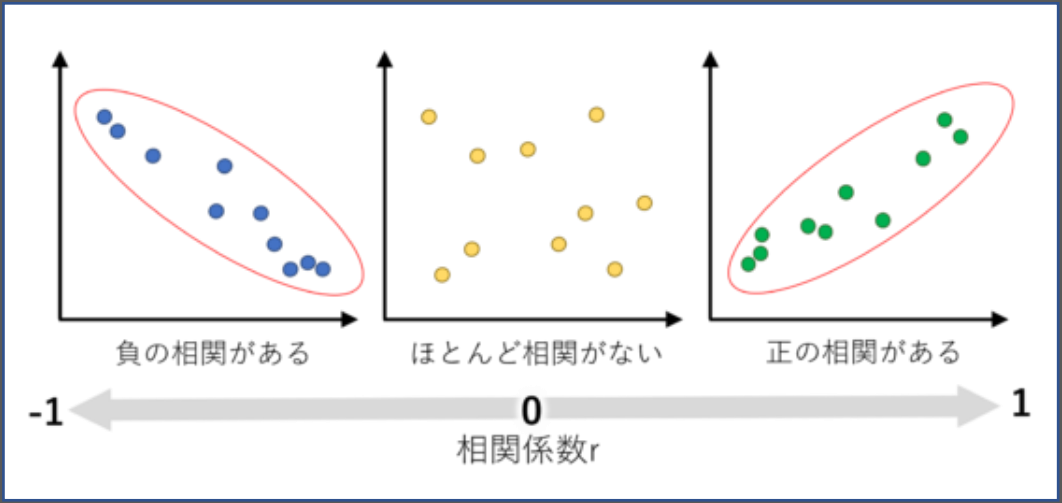
17.	職場には多職種連携協働（チーム医療）について独自の取り決めがある。	1	2	3	4	5
18.	チーム内では、メンバーによって合意された目標が公平に分担されている。	1	2	3	4	5
19.	チームミーティングでは、患者・家族を含めてオープンにコ ミュニケーションをとることが奨励され支持されている。	1	2	3	4	5
20.	対立や衝突を解決するためにあらかじめ決められた手順を活用している。	1	2	3	4	5
21.	変化する患者のニーズに応じてメンバーはチームリーダーをサポートしている。	1	2	3	4	5
22.	皆が一緒になってチームリーダーを選んでいる。	1	2	3	4	5
23.	チームミーティングに 患者を含めることをオープンにサポートしている。	1	2	3	4	5

2021年6月19日 fujitani

チーム医療の成熟度 → 医療の効率性との関係
分析結果報告

- 分析手法
  - 記述統計量
  - 相関分析
  - 重回帰分析

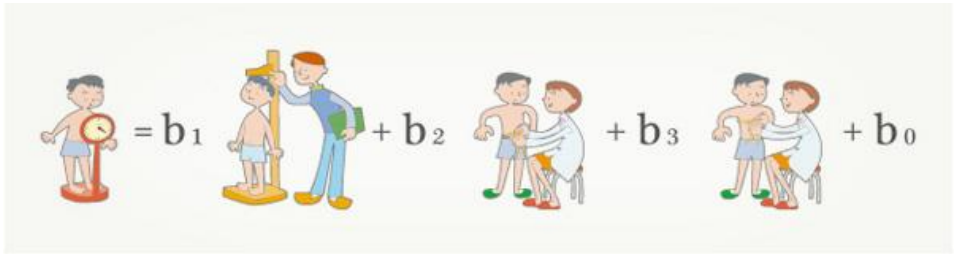
相関分析とは？



相関分析：2つの変数間にどの程度直線的な関係があるかを数値で表す分析

相関係数r ： 2つの変数の間にどの程度直線的な関係があるかどうかを示す数値

重回帰分析とは？



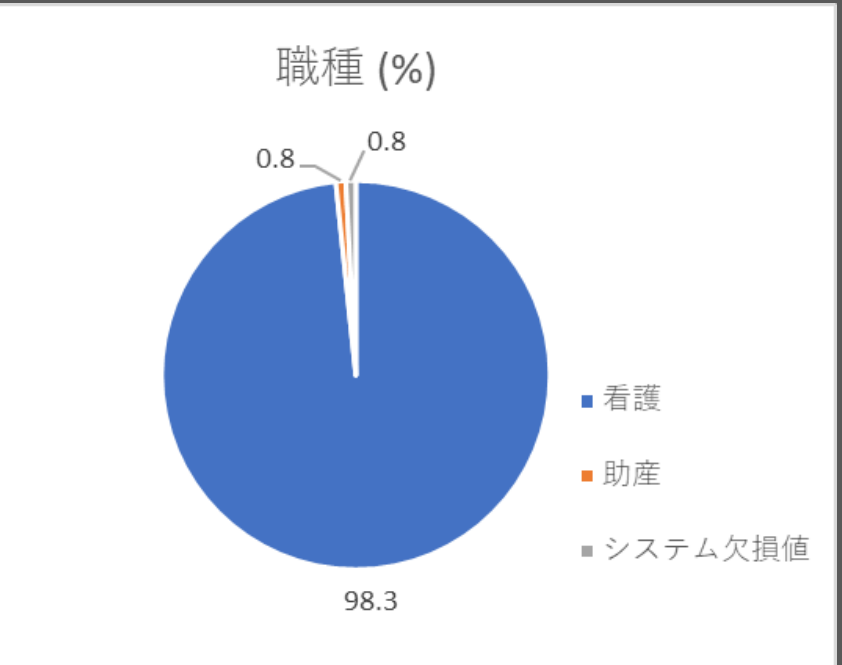
重回帰分析 $Y=b_1X_1+b_2X_2+b_3X_3+b_4X_4\cdots\cdot+b_0$

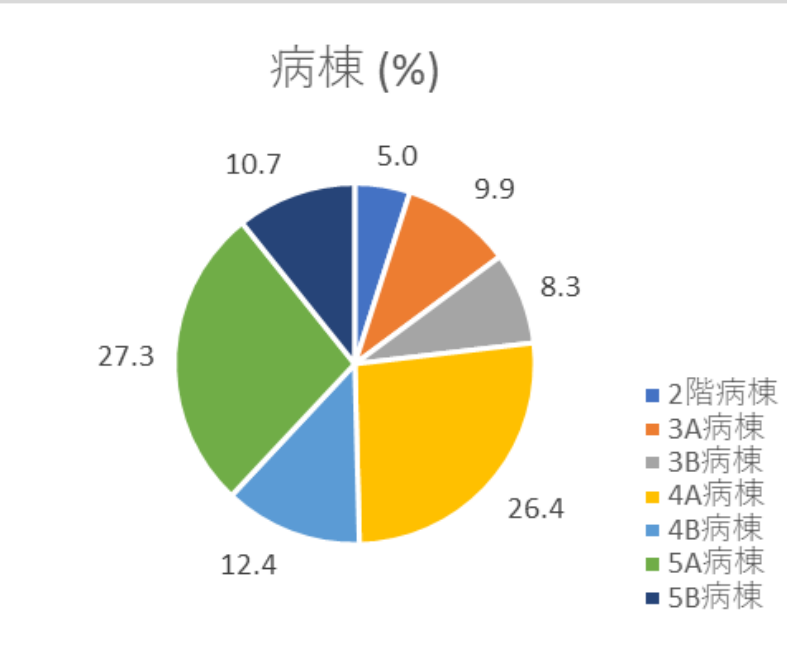
重回帰分析：1つの目的変数を複数の説明変数で予測する分析

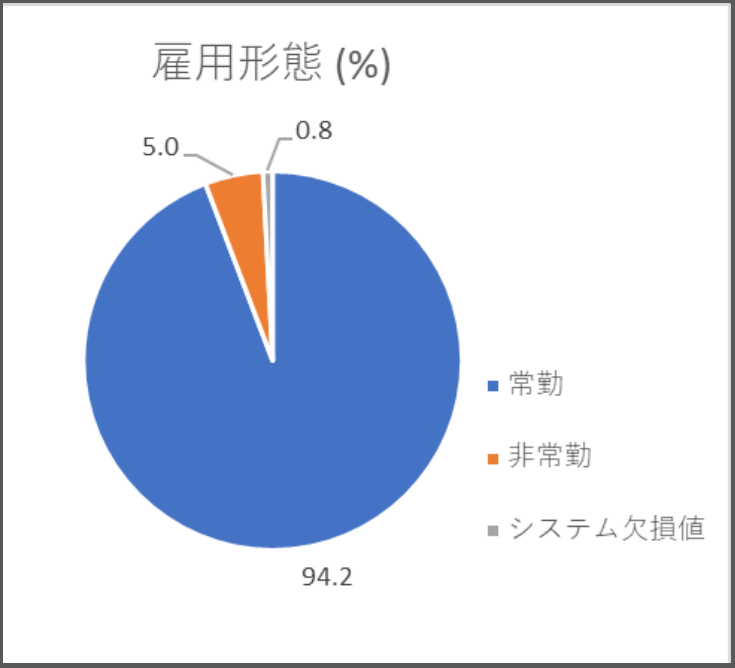
標準偏回帰係数：各説明変数のばらつきの違いによる影響を除去した上での影響度を示す数値

解析対象者の基本的属性

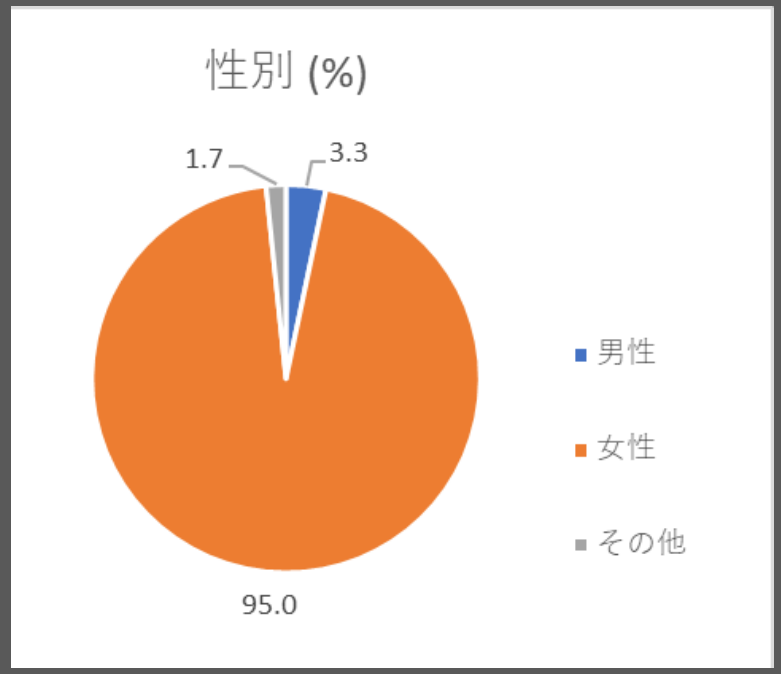
基本的属性

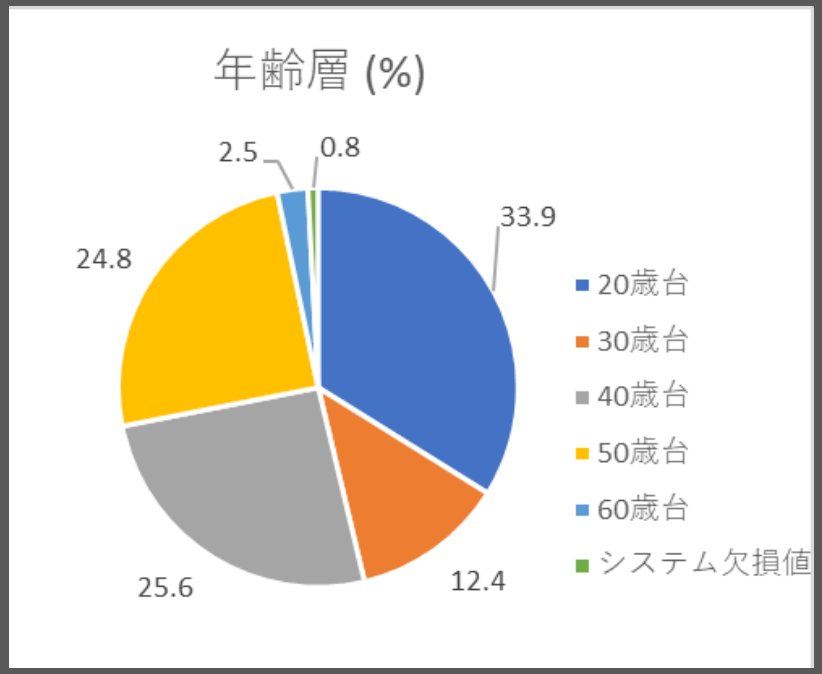

職種 (%)
0.8
0.8
98.3
看護
助産
システム欠損値

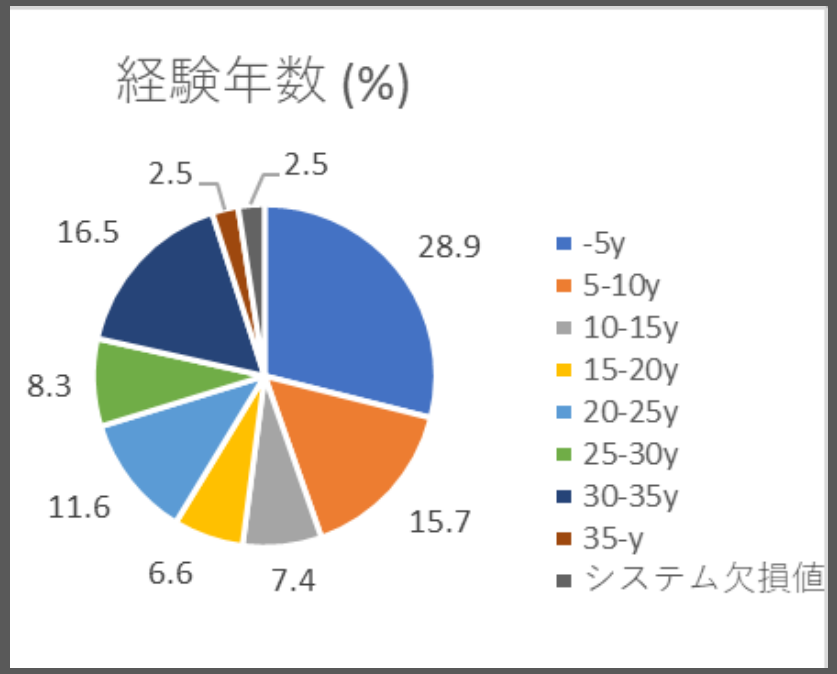

病棟 (%)
10.7
5.0
9.9
8.3
27.3
26.4
12.4
2階病棟
3A病棟
3B病棟
4A病棟
4B病棟
5A病棟
5B病棟


雇用形態 (%)
5.0
0.8
94.2
常勤
非常勤
システム欠損値

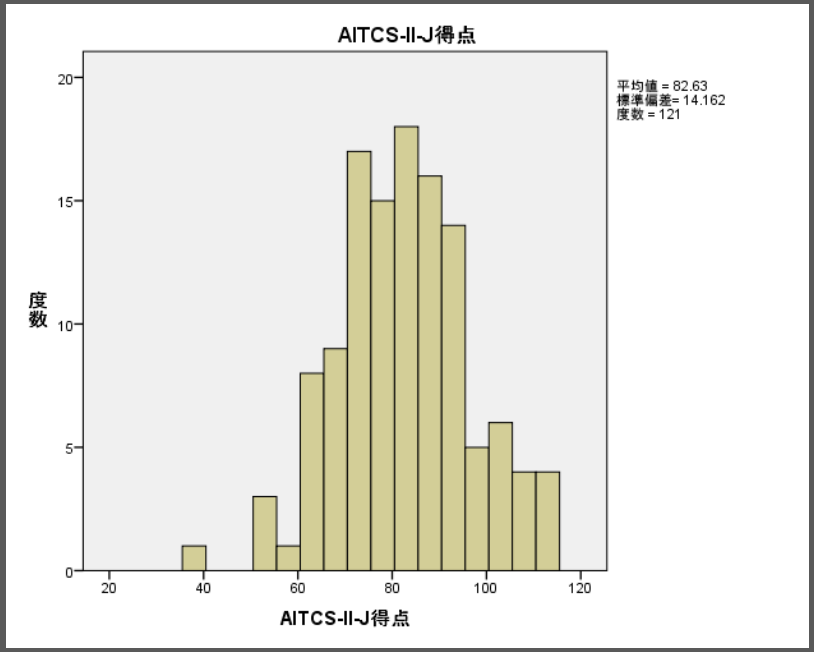
基本的属性

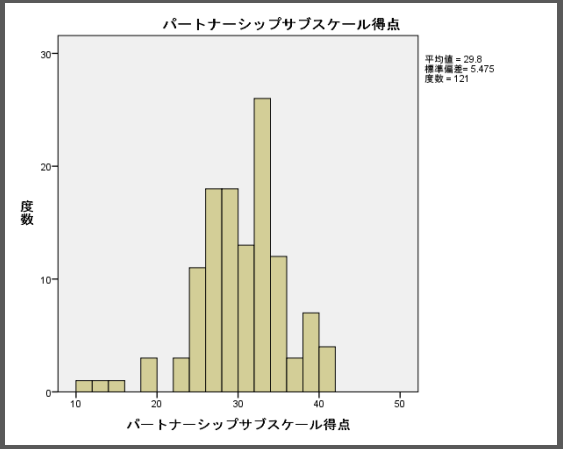

性別 (%)
1.7
3.3
95.0
男性
女性
その他

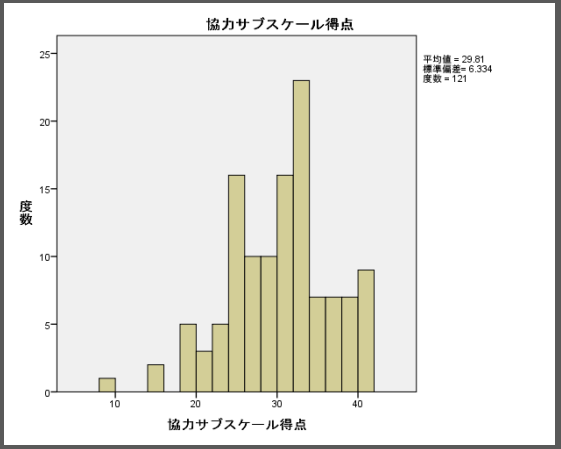

年齢層 (%)
2.5
0.8
33.9
24.8
25.6
12.4
20歳台
30歳台
40歳台
50歳台
60歳台
システム欠損値

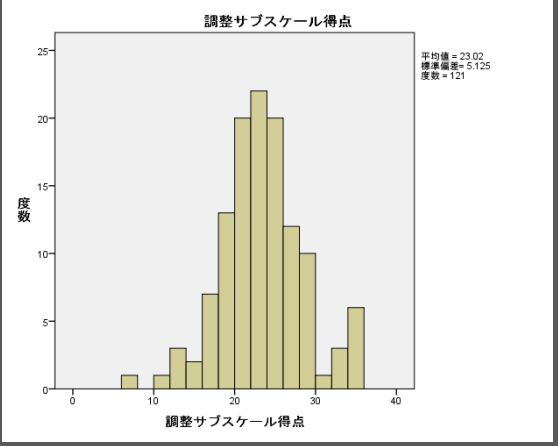

経験年数 (%)
2.5
2.5
16.5
28.9
8.3
11.6
15.7
6.6
7.4
-5y
5-10y
10-15y
15-20y
20-25y
25-30y
30-35y
35-y
システム欠損値

チーム医療の成熟度







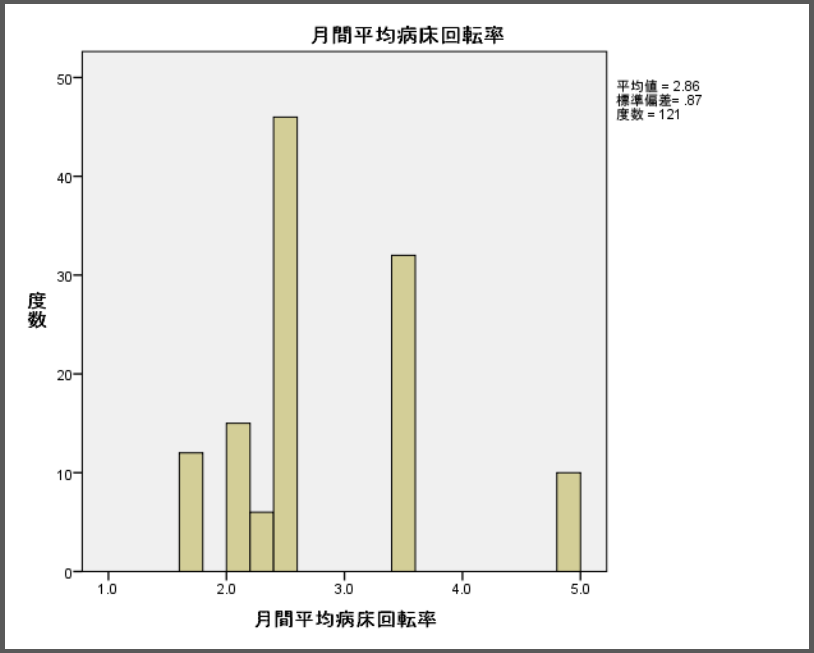


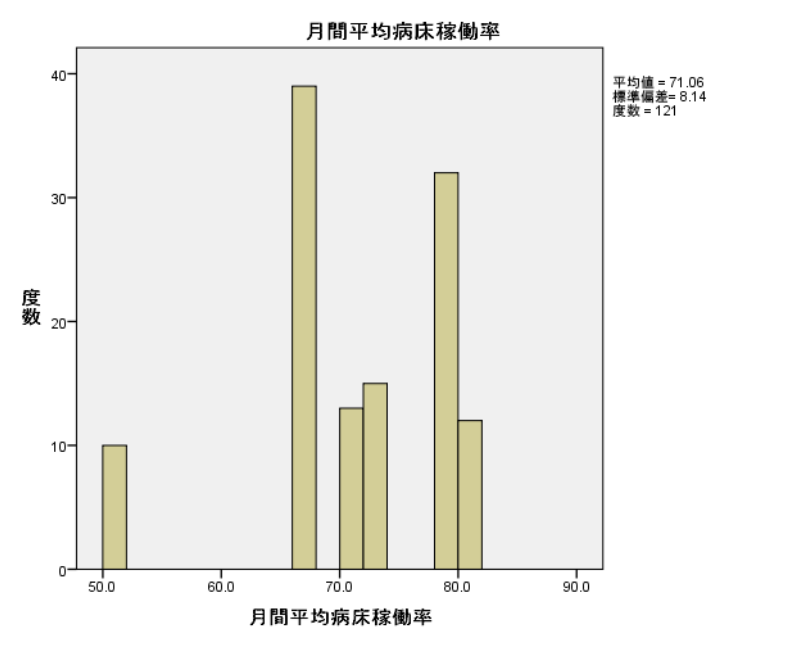
記述統計量

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
AITCS-II-J得点	121	38	115	82.6	14.2
パートナーシップサブスケール得点	121	11	40	29.8	5.5
協力サブスケール得点	121	9	40	29.8	6.3
調整サブスケール得点	121	7	35	23.0	5.1

医療の効率性

医療の効率性





記述統計量

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
月間平均病床回転率	121	1.7	4.9	2.9	0.9
月間平均病床稼働率	121	51.3	80.4	71.1	8.1

医療の効率性

①月間平均在院日数

チーム医療の成熟度 → 医療の効率性との関係 ①月間平均在院日数

相関分析

相関			月間平均在院日数
Spearmanのロー	AITCS-II-J得点	相関係数	-.203*
		有意確率（両側）	.025
		度数	121
	パートナーシップサブスケール得点	相関係数	-.224*
		有意確率（両側）	.014
		度数	121
	協力サブスケール得点	相関係数	-.173
		有意確率（両側）	.058
		度数	121
	調整サブスケール得点	相関係数	-.191*
		有意確率（両側）	.035
		度数	121

重回帰分析

説明変数：AITCS-II-J得点

	標準変回帰係数β	β95%信頼区間下限	β95%信頼区間上限	有意確率
単回帰	-.251	-.095	-.017	.006
重回帰※	-.233	-.093	-.012	.011

説明変数：パートナーシップサブスケール得点

	標準変回帰係数β	β95%信頼区間下限	β95%信頼区間上限	有意確率
単回帰	-.189	-.213	-.006	.038
重回帰※	-.178	-.212	.001	.052

説明変数：協力サブスケール得点

	標準変回帰係数β	β95%信頼区間下限	β95%信頼区間上限	有意確率
単回帰	-.229	-.203	-.026	.011
重回帰※	-.217	-.199	-.018	.019

説明変数：調整サブスケール得点

	標準変回帰係数β	β95%信頼区間下限	β95%信頼区間上限	有意確率
単回帰	-.207	-.238	-.018	.023
重回帰※	-.184	-.226	-.001	.048

※調整変数：病棟、性別、経験年数

チーム医療の成熟度 → 医療の効率性との関係 ①月間平均在院日数

月間平均在院日数 ↓

チーム医療の成熟度 ↑

AITCS-II-J得点

パートナーシップサブスケール得点

（協力サブスケール得点）

調整サブスケール得点

重回帰分析

説明変数：AITCS-II-J得点

	標準変回帰係数β	β95%信頼区間下限	β95%信頼区間上限	有意確率
単回帰	-.251	-.095	-.017	.006
重回帰※	-.233	-.093	-.012	.011

説明変数：パートナーシップサブスケール得点

	標準変回帰係数β	β95%信頼区間下限	β95%信頼区間上限	有意確率
単回帰	-.189	-.213	-.006	.038
重回帰※	-.178	-.212	.001	.052

説明変数：協力サブスケール得点

	標準変回帰係数β	β95%信頼区間下限	β95%信頼区間上限	有意確率
単回帰	-.229	-.203	-.026	.011
重回帰※	-.217	-.199	-.018	.019

説明変数：調整サブスケール得点

	標準変回帰係数β	β95%信頼区間下限	β95%信頼区間上限	有意確率
単回帰	-.207	-.238	-.018	.023
重回帰※	-.184	-.226	-.001	.048

※調整変数：病棟、性別、経験年数

医療の効率性

②月間平均病床稼働率

チーム医療の成熟度 → 医療の効率性との関係 ②月間平均病床稼働率

相関分析

相関			月間平均病床稼働率
Spearmanのロー	AITCS-II-J得点	相関係数	.037
		有意確率（両側）	.687
		度数	121
	パートナーシップサブスケール得点	相関係数	-.120
		有意確率（両側）	.189
		度数	121
	協力サブスケール得点	相関係数	.140
		有意確率（両側）	.127
		度数	121
	調整サブスケール得点	相関係数	-.002
		有意確率（両側）	.983
		度数	121

重回帰分析

説明変数：AITCS-II-J得点

	標準変回帰係数β	β95%信頼区間下限	β95%信頼区間上限	有意確率
単回帰	-.020	-.116	.093	.831
重回帰※	-.043	-.132	.083	.652

説明変数：パートナーシップサブスケール得点

	標準変回帰係数β	β95%信頼区間下限	β95%信頼区間上限	有意確率
単回帰	-.152	-.492	.041	.097
重回帰※	-.181	-.548	.002	.052

説明変数：協力サブスケール得点

	標準変回帰係数β	β95%信頼区間下限	β95%信頼区間上限	有意確率
単回帰	.087	-.120	.345	.341
重回帰※	.069	-.151	.328	.465

説明変数：調整サブスケール得点

	標準変回帰係数β	β95%信頼区間下限	β95%信頼区間上限	有意確率
単回帰	.000	-.289	.288	.999
重回帰※	-.009	-.311	.281	.921

※調整変数：病棟、性別、経験年数

チーム医療の成熟度 → 医療の効率性との関係 ②月間平均病床稼働率

重回帰分析

説明変数：AITCS-II-J得点

	標準変回帰係数β	β95%信頼区間下限	β95%信頼区間上限	有意確率
単回帰	-.020	-.116	.093	.831
重回帰※	-.043	-.132	.083	.652

説明変数：パートナーシップサブスケール得点

	標準変回帰係数β	β95%信頼区間下限	β95%信頼区間上限	有意確率
単回帰	-.152	-.492	.041	.097
重回帰※	-.181	-.548	.002	.052

説明変数：協力サブスケール得点

	標準変回帰係数β	β95%信頼区間下限	β95%信頼区間上限	有意確率
単回帰	.087	-.120	.345	.341
重回帰※	.069	-.151	.328	.465

説明変数：調整サブスケール得点

	標準変回帰係数β	β95%信頼区間下限	β95%信頼区間上限	有意確率
単回帰	.000	-.289	.288	.999
重回帰※	-.009	-.311	.281	.921

※調整変数：病棟、性別、経験年数

分析結果のまとめ

医療の効率性

月間平均在院日数↓

月間平均病床稼働率

パートナーシップ
調整
（協力）

チーム医療の成熟度

分析結果のまとめ

医療の効率性

月間平均在院日数↓

チーム医療の成熟度

パートナーシップ

調整

セクション 1：パートナーシップ

チームで働くときは、すべてのチームメンバーが・・・・・

1	患者目標を設定するときは患者を巻き込んでいる。	1 2 3 4 5
2	私が所属するチームはケアプロセスを決めるときに患者の要望に耳を傾けている。	1 2 3 4 5
3.	常時患者ケアについてミーティングを行い話し合いをしている。	1 2 3 4 5
4.	患者ニードに 基づいて、健康やソーシャルサービス（家計、仕事、住まい、地域とのつながり、スピリチュアル）に関わる調整をしている。	1 2 3 4 5
5.	患者ケアについて話し合うためにチームメンバーとは首尾一貫したコミュニケーションをしている。	1 2 3 4 5
6.	患者個々のケア目標設定に関わっている。	1 2 3 4 5
7.	治療計画、ケアプラン等を立てるときは、多職種の知識やスキルを活用するために、多職種のメンバー、患者、家 族に働きかけている。	1 2 3 4 5
8.	治療計画、ケアプラン等を調整するときには、患者や家族と一緒になって行う。	1 2 3 4 5

セクション 3: 調整

チームで働くときは、すべてのチームメンバーが・・・・・。

17.	職場には多職種連携協働（チーム医療）について独自の取り決めがある。	1 2 3 4 5
18.	チーム内では、メンバーによって合意された目標が公平に分担されている。	1 2 3 4 5
19.	チームミーティングでは、患者・家族を含めてオープンにコ ミュニケーションをとることが奨励され支持されている。	1 2 3 4 5
20.	対立や衝突を解決するためにあらかじめ決められた手順を活用している。	1 2 3 4 5
21.	変化する患者のニーズに応じてメンバーはチームリーダーをサポートしている。	1 2 3 4 5
22.	皆が一緒になってチームリーダーを選んでいる。	1 2 3 4 5
23.	チームミーティングに 患者を含めることをオープンにサポートしている。	1 2 3 4 5

2021年6月19日 fujitani